

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Factors associated with new onset of father-to-infant bonding failure from 1 to 6 months postpartum: an adjunct study of the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

産後 6 か月で新規発生する父親のボンディング形成不全の関連因子の検討: エコチル調査追加調査

ユニットセンター(UC)等名: 宮城ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology

年: 2023 DOI: 10.1007/s00127-023-02505-0

筆頭著者名: 鈴木 妙子

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

父親のボンディング形成不全(BF)の産後 1 か月から産後 6 か月まで経時的変化とその関連因子を明らかにする。

方法:

父親の BF は赤ちゃんへの気持ち質問票(MIBS-J)を用いて評価した。産後 1 か月から産後 6 か月での MIBS-J の経時的変化を 4 群 (BF なし群/新規発生群/改善群/持続群)に分類した。MIBS-J は、①MIBS-J の全項目、②MIBS-J サブスケールの情緒的絆の欠如(LA)、③MIBS-J サブスケールの怒り/拒絶(AR)の各スコアに分類し、それぞれの新規発生群の BF の関連因子を分析した。MIBS-J のカットオフ値は、MIBS-J 全項目 5 点以上、MIBS-J_LA3 点以上、MIBS-J_AR3 点以上とした。新規発生群の関連因子について、単変量解析で有意 ($p < 0.05$)であった変数について多変量解析を行った。

結果:

872 人の父親を対象とした。産後 6 か月で新規発生した BF の頻度は全項目、LA、AR でそれぞれ 5.6%、4.9%、6.3%であった。全項目で有意な関連因子は、父親の育児休業取得 (調整オッズ比 [AOR] 3.19、95%信頼区間 [CI]: 1.20-8.47)、父親の新規発生後の産後うつ (AOR 3.18、95%CI: 1.31-7.72)、母親の新規発生後の BF (AOR 4.60、95%CI: 1.12-18.87)であった。新規発生後の LA で有意な関連因子は早産 (AOR 4.19、95%CI: 1.47-11.91)、父親の新規発生後の産後うつ (AOR 3.29、95%CI: 1.29-8.36)であった。新規発生後の AR で有意な関連因子は、父親の育児休業 (AOR 3.14、95%CI: 1.14-8.68)、父親の新規発生後の産後うつ (AOR 2.83、95%CI: 1.13-7.07)、母親の新規発生後の AR (AOR 7.06、95%CI: 2.30-21.70)であった。

考察(研究の限界を含める):

本研究は、産後 6 か月で新規発生した父親の BF に焦点をあてたはじめての試みであり、父親の BF の新たな知見が得られた。新規発生群があるため、産後 1 か月だけでなく産後 6 か月においてもスクリーニングする必要がある。また、これら関連因子を念頭に、父親が相談しやすい環境づくりや支援につなげることが必要である。研究の限界としては、エコチル追加調査であり選択バイアスがある。自記式質問票であり客観的に評価をしたものではない。

結論:

産後 1 か月から産後 6 か月で新規発生した父親のボンディング形成不全の頻度は約 5%であり、その関連因子は、父親の育児休業取得、早産、父親の新規発生後の産後うつ、および母親の新規発生後のボンディング形成不全であった。